

大人の発達障害



今回は
注意欠如・多動症（ADHD）
についてお知らせします。

ADHDとは「不注意・多動性・衝動性」が通常範囲を超えていて、その行動が生活上で支障をきたす状態になっている状況を言います。

個人差があるのが特徴です。一つの種類・特性だけが現れる人もいれば、いくつかの種類・特性が重なって現れる人もいます。

不注意優勢型（不注意が目立つ）

- ・ケアレスミスが多い
- ・約束を忘れてしまう
- ・物を失くす・・・など

上記のミスは ADHD 以外の方でも起こりうるものですが、ADHDの方は日常生活や社会生活に支障をきたす場合があります。本人のやる気がない、怠けているわけではないのです。

多動・衝動性優勢型（落ち着きのなさが目立つ）

- ・じっとすることが苦手
- ・失言してしまう
- ・突発的に行動してしまう・・・など

様子としてはなんとなくそわそわする、周囲が気になり集中できないことがあります。

混合型（不注意・多動性・衝動性も目立つ）

混合型は上記にあげた不注意・多動性・衝動性共に目立つタイプになります。



発達障害と聞くと子ども特有のものと捉えてしまいがちですが、成長した後も症状が持続したり、大人になってから気づくケースも最近では増えてきています。とはいえ、発達障害は大人になってから発症するものではなく、子供のころ症状が軽く、見過ごされてしまっていたケースがあります。

大人になると徐々に周囲の環境が変わっていき、職場などで年齢層の違う状況で、人間関係も複雑になってきます。それに対処しきれなくなった時に問題が表面化し症状に気づくことがあります。



障がいに関わらず一人一人違うのが当たり前の社会です。相手を知る、興味をもつ、接することで分かり合えたらいいですね。同じ職場で働く仲間として優しさを分け合えたら効率よく業務を進めることができますね。

職場での発達障害とのかかわり方

- ◆周囲に特性を理解してもらう
- ◆サポートしてくれる人を増やす
- ◆苦手な部分をサポートする

1. 不注意型であれば、前後の声掛けと確認があれば防げることもあります。
2. うっかりミスには確認リストなどを作成しチェックすることも効果的です。
3. じっとしていることが苦手な人には、動きのあるお仕事を提案してみるのも一つです。

しもきた活動紹介

障がい者就職相談会

9月8日（木）プラザホテルむつにて障がい者就職相談会が行われました。コロナ感染症の影響で通常での開催は2年ぶりとなりましたが、参加した企業は12社でした。

次年度以降は、障がい者が様々な企業と就職相談ができる様、より多くの企業に参加していただくよう働きかけたいと思います。

職種は清掃・介護補助が多く、事務・現場作業員などの求人も見られました。

参加者は事前に準備したプロフィール票を手に企業のもとへ移動し、質問や疑問に思うことなど確認しています。参加された企業の方からは一つひとつ丁寧に仕事内容を説明していただいております。今回説明会に参加された方からは、時間が足りずお話を聞くことができない企業もあったとの声も聞かれていました。



職場実習

特別養護老人ホーム桜木園のご協力で職場実習を行いました。

9月27日から3日間4名の方が清掃作業の実習を行いました。

【 窓清掃 】

汚れを落とし水滴をきれいに拭き取ることに苦戦しながらも参加者は最後まで集中力を維持し作業しています。



【 車椅子清掃 】

気持ちよく使っていただけるよう、心を込めてきれいに仕上げています。



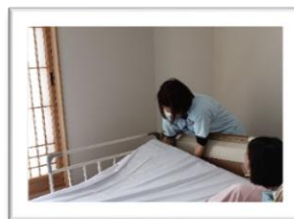
参加者の感想

窓ふきは水滴が残らないように仕上げるのが大変でした。車いすの掃除では、タイヤの汚れを取ることに少し難しいと、感想が聞かれました。

10月は17日～28日の2週間1名の方が介護補助の実習を行いました。

【 介護補助 】

シーツ交換やトイレ掃除を行い、気持ちよく過ごしていただけるよう丁寧に仕上げています。



参加者の感想

介護実習では充実した体験ができました、と感想がきかれました。



みなさん、実習お疲れさまでした。
ご協力いただいた桜木園のみなさん
ありがとうございました。

令和4年度 しもきた 事業実績（10月末現在）

登録者	207名
在職者	107名
今年度就職者	11名
相談支援件数	1134件